主要建築材料價格並に指數表（東京方面）

昭和八年十二月現在

名稱	單位	價格	指數
割栗石（六ケ村）	川岸配立坪	二二、六〇	一六七
砂利（玉川一寸）	同	一八、九〇	一三三
砂利（玉川六分）	同	二〇、〇〇	一二一
砂（玉川）	同	九、五〇	二〇七
セメント（樽入）	一樽	四、七五	一四四
生石灰（鼠）	十貫俵	、五三	二一二
煉瓦（上焼一等甲）	千本	二九、四〇	二一〇
同（同二等甲）	同	二四、二〇	二三〇
同（並焼一等甲）	同	二七、三〇	二三七
同（同二等甲）	同	二三、〇〇	二三二
花崗石稲田（五切以下）	一切	一、三七	二〇八
横根澤（五切以下）	同	一、七九	二九八
須賀川（三切以下）	同	一、〇五	二一〇
大谷（三尺、尺角）	同	、三九	一九五
丸鐵（定尺六分丸）	百延	九、二〇	一二三
角鐵（定尺六分角）	同	一一、一〇	一三九
平鐵（定尺巾二寸厚二分）	同	一〇、〇〇	一四七
Lアングル（定尺二吋半三分）	同	一〇、五〇	一三六
Iジョイスト（定尺十吋三分）	同	一二、四〇	一三三
⊏チャンネル（定尺七吋三分）	同	一三、一〇	一四九
鐵板（4×8三分）	同	一三、四〇	一六八
亜鉛引平板（並物三十番）	一枚	、七六	九五
同生子板（三十番六尺）	同	、六一	九四
銅板（定尺七十日付）	一貫目	三、七五	一二五
丸釘（二寸十二番十六貫）	一樽	九、三〇	一四五
生松丸太（二間末口五寸）	一本	一、二六	一六八
杉二間（押四寸末口四寸取）	同	一、二六	一九四
檜二間（山挽四寸三等品）	同	二、〇〇	一八二
椹二間（山挽四寸一等品）	同	二、四〇	一六〇
栂二間（山挽四寸貫去二方無節）	同	九、九八	一三三
松二間（挽材並小丸身付）	立方尺	一、〇〇	一六一
米松大角（マーチャンタブル）	同	、九五	一二五
欅九尺巾二尺厚一寸五分（挽材中等品）	同	七、八八	一九七
杉丸太（二間尺二秋田三方物）	尺〆	一六、八〇	二四〇
檜丸太（二間尺三尾州三方物）	同	四二、〇〇	二八〇
杉二間板割（極掛八寸厚六分五厘）	一枚	、七一	一四二
杉一間四分板（巾尺小節）	同	、三七	一八五
北海松二間板割（縁掛八寸厚六分）	同	、四五	一五〇
杉二間大貫（二番）	一丁	一、一五	八八
松一間四寸敷居（並）	同	一、一八	一五〇
松二間二寸角（同）	一本	一、一七	一四二
三州瓦並兩面磨（六四判引掛）	百枚	六、〇〇	一五八
地燒瓦片面磨（切込棧）	同	四、九五	二二五
スレート（一等品並厚一二×の）	同	五、〇〇	二二七
石綿盤（一等白色品十六吋角）	同	三、七〇	九八
硝子四等品（並三十八入板）	一箱	七、七〇	一〇四
同三等品（正一分七八九入）	同	一五、八〇	一三二
平均			一七〇

指數外

名稱	單位	價格
セメント資袋（紙袋）	一樽	四、二一
丸鐵定尺（三分丸）	百延	九、二〇
米栂丸太二間尺五（No.1クリヤー）	一石	一〇、五〇
米檜丸太三間、尺五（同）	同	二一、〇〇
米杉丸太二間、尺五（同）	同	一〇、五〇
薬檜丸太三間、尺五（中材）	同	二〇、五〇
チーク角材二間尺五（歐洲二等材）	同	七六、七〇
櫟角材二間、二尺（撰木）	同	一〇、五〇
オーク角材二間、二尺（同）	同	一〇、〇〇
ラワン板子二間厚五寸（二等材）	同	一五、八〇
硝子（舶來磨二分）長五尺巾三尺	平方尺	二、一〇
同（同疵二分）同	同	、三四
同（同網入二分）同	同	、四八
同（同網入磨二分）同	同	二、六〇

職工勞銀並に指數表（東京方面）

昭和八年十二月現在

名稱	單位	勞銀	指數
大工	一人	二、〇〇	二二一
木挽	同	二、五〇	二五〇
鳶	同	一、六〇	二四六
土工	同	一、六〇	二六七
人夫	同	一、二五	二三七
女人夫	同	、六五	一八六
石工	同	三、〇〇	二〇七
同手傳	同	一、九〇	二五三
煉瓦工	同	二、七〇	二四六
同手傳	同	一、七〇	二六二
土居葺工	同	二、八〇	二五五
瓦工	一人	二、八〇	二五五
スレート工	同	二、五〇	二〇〇
錺工	同	二、七〇	二四六
左官	同	二、五〇	二二七
建具工	同	二、六五	二六五
疊工（糸代除）	同	二、六〇	二一七
經師	同	二、四〇	二四〇
硝子工	同	二、四〇	二四〇
塗工	同	二、四〇	二一八
鍛冶工	同	二、二五	二五〇
運送（手引）	一車	二、二五	一八七
同（馬力二輪）	同	三、六〇	一四四
運送（馬力四輪）	一車	四、三〇	一三〇
平均			二三六

指數外

名稱	單位	勞銀
運送（貨物自動車一噸運轉手ガソリン共）	一臺	一〇、〇〇
同（同一噸半）	同	一四、〇〇
同（同二噸）	同	一八、〇〇
假枠大工	一人	一、六五
鐵筋工	同	一、六五
斫工	同	一、六〇
アスファルト工	同	二、七〇

備　考： 本表に於ける指數は東京方面は大正三年六月、大阪方面は大正三年九月の勞銀及價格を100とし之を基準とす。